

歴博暮らしの植物苑だより

暮らしの植物苑観察会 13:30から 暮らしの植物苑東屋

第116回 11月22日(土)『古典菊の品種の特徴と大名庭園の菊作り』

小笠原 亮 (江戸園芸研究家)

第117回 12月6日(土) 第4土曜日ではありません。ご注意ください。

『サザンカの文化史』 箱田直紀 (恵泉女学園大学名誉教授)



伝統の古典菊 開催中



嵯峨菊展示風景

前回は奥州菊、嵯峨菊について、今回は伊勢菊、江戸菊についてです。

22日(土)の観察会は古典菊についての講演を暮らしの植物苑東屋でおこないます。

伊勢菊

伊勢菊は三重松坂で栽培されています。松坂菊とよぶこともあるが、大輪の松坂菊と、中輪菊を区別するために中輪菊を伊勢菊と呼びます。今は松坂三珍花(伊勢菊、伊勢ナデシコ、伊勢ハナショウブ)保存会を中心に品種の保存に努められています。

花卉：よれて管状にみえる平弁、長く縮れて垂れ下がります。

弁咲き：裂けて分岐したり、巻き込んだり変わり咲きが多い。

色：黄、桃、紅、朱、白、咲き分け、ぼかし、など。

花形：垂咲き、平咲、玉巻き咲き、裂け弁咲き

花芯型：露芯型、被芯型、無芯型。

葉型：深切込み茎葉。

仕立て方の特徴：箒仕立て、3茎15花の天地人仕立て。

菊づくりの名人奥技 第二巻

(農村魚村文化協会編 1997) より抜粋



江戸菊

江戸菊も中菊に属し、管弁、さじ弁、平弁を持っています。花弁は、よれて巻きあがる独特な花弁の変化を楽しむことから狂い咲きとも呼ばれていました。

変化：○つぼみが開いた後、花弁はすべて垂れて花芯を露芯させる（咲き下ろし）。

○平弁やさじ弁がよれながら立ち上がり、花芯を包み込む。

○管弁は立ち上がり、走り弁のように花径を大きく見せる。

もう1つの楽しみ：花弁の裏表の色が異なるため、裏の花色が多くなり、花色模様の変化。

仕立て方の特徴：9本、12本、15本仕立てが基本。

菊つくりの名人奥技 第二巻 (農村魚村文化協会編 1997) より抜粋



下谷花銀星



平成絵巻



下谷花川戸



アシズリノギク
(キク科キク属)



クサギ
(クマツヅラ科クサギ属)



“桜月夜” サザンカ群
(ツバキ科ツバキ属)

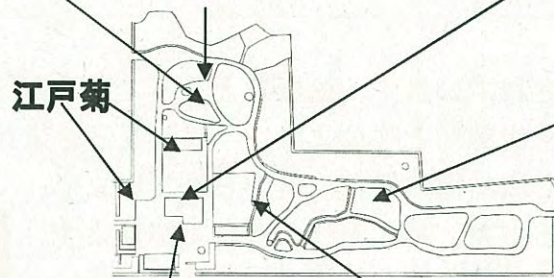
サザンカ群
カンツバキ群
展示しています



シャクチリソバ
(タデ科ソバ属)



リンドウ
(リンドウ科リンドウ属)



江戸菊



伊勢菊“雪山”



伊勢菊“桜吹雪”



アカネ
(アカネ科アカネ属)